

平成24年度県立大学地域貢献研究の研究成果について（完了報告・中間報告）

研究テーマ	福井県在住の外国人のための医療環境における言語サポートの予備調査 ステップ3:外国人患者と医療側がアクセスできる医療通訳サポートグループ 作り、英語以外の言語の医療通訳者調査とトレーニング、DVと医療通訳の架け 橋調査
研究期間	平成 23 ～ 24 年度
主たる研究者	【学部・学科】 学術教養センター                      【職・氏名】 ロレイン サッカ

## ○研究目的

1. 去年の引き続き
2. 言語サポートグループ作り；英語以外の言語も含む（Fukui MITLink 誕生）
3. 地域のそれぞれのNPO団体との情報共有；繋げる
4. 医療側の意見調査（通訳者の必要性等）
5. 医療通訳トレーニング高める
6. 日本における医療通訳

## ○研究成果

1. 去年の引き続き
  - a. 済生会病院の医療通訳ボランティアの続き  
平成24年1月から平成25年2月末、（52週の間30回通訳を実施、患者さんの意  
見調査、研究の工夫）
  - b. 通訳者のインタビュー続き  
23名：ブラジル人の通訳者8人、英語の母国語の通訳者1人、  
日本人（日本語／英語通訳者）14人
2. 言語サポートグループ作り；英語以外の言語も含む（Fukui MITLink 誕生）
  - a. 毎月英語／日本語勉強会
  - b. 毎月ブラジル人の協力者との話し合いと教育資料集めなど
3. 地域のそれぞれのNPO団体との情報共有；繋げる
  - a. FIA, SHABERIBA、インタナーショナルクラブ等の協力話し合い；将来のプランニング
4. 医療側の意見調査（通訳者の必要性等）  
2月15日と2月16日に、アンケートにより意見調査；アンケートの回答やワークショ  
ップを通して医療者のインタビューを25年度にする予定が出来た。薬剤師のインタビュー  
も25年度に出来る予定。

## 5. 医療通訳トレーニング高める

- a. 2月2日 医療通訳の実践ワークショップ（ポルトガル語4人、中国語3人、スペイン語2人；5人県外の参加者含めて全部で27人参加者）
- b. 2月10日 JHI の活動の話と外国人のための団体の紹介（もともと英語ネイティブの外国人のためのワークショップだったが、外国人参加者がいなかったため、少人数の参加者で医療通訳の話し合いと練習を実施；参加者6人）
- c. 2月15日 りんくう総合医療センターにおける外国人医療（参加者34人；病院関係者11人）
- d. 2月16日 本音で語ろう、医療通訳！（参加者38人；ブラジル人13人含む）  
外国人患者の基礎知識（医療関係者20人）
- e. 2月23日 通訳時のノートの取り方；サイトトランスレーションを可能にするものワークショップ（参加者38人）

## 6. 日本における医療通訳

- a. りんくう病院への医療通訳研究調査とインタビュー
- b. 愛知県医療通訳の調査とインタビュー
- c. びわ湖国際医療フォーラム参加；滋賀県の通訳者と話し合い、インタビュー予定
- d. JAMI（日本医療通訳協会）参加との発表（平成24年7月21～22日）

今後の予定（平成25年度）：

- ブラジル人コミュニティの信頼感を持てるようになったため、通訳者のインタビュー協力者を作る
- 今年度 IMIA 学会に行けなかったため、25年度の学会で発表を実施予定
- 平成25年夏のびわ湖国際医療フォーラムでの発表準備
- 2009～2013年度の研究調査の論文の仕上げ
- ブラジル人の勉強会スタート
- 2月のワークショップのDVD作成（6～7月頃完成予定）